



第15回 山科本願寺

(京都府京都市山科区西野)

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は京都市の山科本願寺を紹介します。寛正6年(1465)延暦寺衆徒が大谷本願寺を破却した「寛正の法難」により本願寺8世蓮如は親鸞聖人の御真影を大津近松御坊に避難させました。文明3年(1471)吉崎御坊を拠点に蓮如は北陸布教を始めますが、同7年吉崎を退去して河内出口に向かいます。文明10年(1478)金森の道西の願いにより山科郷野村西中路に坊舎を建てたのが山科本願寺の始まりです。文明12年8月に御影堂が完成し、11月に大津から御真影を移し、翌6月には本尊を阿弥陀堂に安置し御本寺が完成しました。山科本願寺は主要な堂舎が建つ御本寺を中心に、その北側から東を回り込むように南側まで囲う内寺内には法主の家族一族や有力末寺の坊舎が建ち、その外側に末寺と寺に関わる職人や商人が居住する外寺内を配置し、各区画の周囲と外周を土塁と濠で囲む寺内町と呼ばれる自治宗教都市であり、また防御性の高い輪郭式という城郭の縄張構造の城郭寺院でした。山科中央公園には内寺内の北東隅に位置する土塁が残り、2002年国史跡に指定されています。



山科本願寺土塁(山科中央公園)

延徳元年(1489)蓮如は寺務を五男実如に譲り、寺内町の東約1キロに南殿を造営して隠居所としました。明応8年(1499)3月25日蓮如は南殿で亡くなり火葬され、外寺内の御遺骨が埋葬された地に御廟(現在の蓮如上人御廟所)が建てられました。

天文元年(1532)10世証如のとき日蓮宗徒(法華一揆)と南近江守護の六角定頼の兵に山科本願寺は襲撃され堂宇は灰燼に帰し、証如は大坂御坊(後の大坂本願寺)に退去しました。その後、残された蓮如の廟所を管理する寺もないまま時が過ぎる中で、慶長7年(1602)本願寺が東西分立して本尊や廟所の帰属をめぐる対立が続きました。享保17年(1732)本願寺派第15世住如が北山別院の旧堂を廟所の東側に移築し(本願寺山科別院の始まり)、本堂が安永3年(1774)、中宗堂が文政6年(1823)に建立され、明治17年(1884)蓮如の自作と伝わる蓮如上人御木像が中宗堂に安置されることになりました。同じく享保17年に真宗大谷派第17世眞如が本山寺内の長福寺を山科竹ヶ鼻に移し、元文元年(1736)真宗大谷派山科別院の落慶法要が行なわれました。同4年(1739)江戸幕府が廟所を両派の共有として裁定しましたが、明治維新後に内務省の買上げで官地となり、明治15年(1882)に至り廟所は両派に下賜され、現在まで共同で護持されています。

参考資料
Wikipedia
「山科本願寺」
「山科本願寺の戦い」

本願寺山科別院
ホームページ

現地案内板
ほか



蓮如上人御廟所



本願寺山科別院(本願寺派) 本堂・中宗堂